

## アスクル、12月21日よりAVC 関西にて 新 GTP ソリューション「PopPick」318 台を導入、約 7 割が稼働開始 ～中期経営計画で掲げるロングテール商品拡大に向け「高密度収容」「庫内作業効率化」を目指す～

アスクル株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:吉岡晃、以下「アスクル」)は12月21日より、ASKUL Value Center 関西(以下、「AVC 関西」)に、株式会社ギークプラス(本社:東京都渋谷区、代表取締役 CEO:加藤 大和)の新製品「PopPick」を318台導入し、うち246台が稼働を開始します。

PopPickは新しいGTP(※1)ソリューション設備で、在庫商品の入った折り畳みコンテナを収納した棚をPopPickステーションまで搬送し、作業員はPopPickステーションが自動で搬送するコンテナ商品ピッキング作業を定点で行うものです。従来のGTPソリューションと比較して、同面積あたりの商品保管効率が高く、より多くの商品アイテム数を在庫可能とするため、当社が中期経営計画の重要施策としている品揃え拡大に対応する目的で導入しました。

本ソリューションの導入により、商品の品揃え拡大への対応はもとより、庫内作業の生産性が一層上がるよう物流DXを推進してまいります。

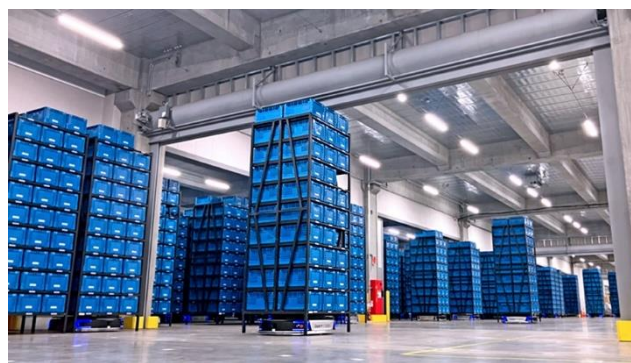
(※1)Goods To Personの略。ピッキングを担当する作業員のいる場所まで直接荷物を搬送するロボットのこと。

### ■自動搬送システム「PopPick」の概要

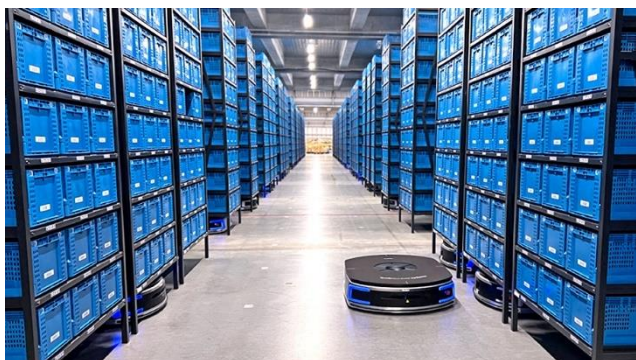
PopPickは、ギークプラス社の新製品で、物流センター内における注文された商品を注文ごとに集品する「ピッキング作業」の工程に向けたソリューション設備です。在庫商品は、折り畳みコンテナを高さ約3.8メートル、縦に10段積んだ棚に高密度に保管されています。受注データを受信するとロボットがPopPickステーションと呼ばれる作業員の定点作業位置まで棚を搬送します。次に、PopPickステーションは出荷する商品の入ったコンテナを棚から取り出し作業員の手元まで自動搬送します。最後に、作業員が手元に届いたコンテナから必要個数を出荷コンテナにとりわけ作業のみを定点で行います。このたび、AVC 関西に318台導入し、第1期として246台を12月21日から稼働開始します。(第2期として2024年春に72台稼働開始予定)



PopPick ステーション



防火区画制限なくロボットの走行が可能



AVC 関西庫内の様子①



AVC 関西庫内の様子②

アスクルでは、物流センター内で作業員が注文のあった商品を注文ごとに集品する「ピッキング作業」においてこれまでも、完全無人のピッキングロボットから協業型のAMR(※2)、作業員を定点固定するGTPまでさまざまなロボットを導入してきました。いずれも従来、人が商品棚まで足を運び保管・ピッキングしていた工程をロボットが代替し、作業員の

歩行負荷を減らし、作業効率を高めるソリューションです。今回導入の PopPick が他のロボットソリューションと大きく異なる特徴は、以下 3 点です。

## 【PopPick の特徴】

- ① **防火シャッター下の高さいっぱいまで商品コンテナを棚に積載可能な点**  
AVC 関西の床面から庫内防火シャッター下までの高さ 4 メートルに対し、最大限の高さである約 3.8 メートルの棚を導入し、10 段のコンテナを積載が可能。棚の中のコンテナ同士も 2 センチの間隔で配置され、棚と棚の間にも人の歩行のための通路がないため、高密度に大量の商品を保管できる。
- ② **作業員が棚から商品を手作業で取り出さず、PopPick ステーションが自動で行う点**  
従来の棚搬送型 GTP ソリューションは、作業員が棚から商品を取り出す作業は手作業であるのに対し、PopPick ではステーション自体が対象のコンテナを自動で取り出し作業員の手元に届ける。
- ③ **受注データ等に基づき今後の注文を予想し、非稼働時に「注文頻度の高い商品」の入ったコンテナ同士を別々の棚から同じ棚に自動で集約する点**  
受注データ等を基に今後の注文を予想し、非稼働時間を利用して別々の棚に配置されている商品を注文頻度別に同じ棚内に集約する。それにより、棚の搬送回数が少なくなり、タイムロスの少ないより効率の良い搬送を実現。

今回の導入により、商品が大量保管できるためロングテール品の品揃え拡大が可能になり、保管効率は約2倍(※3)を見込んでいます。さらに、定点でのピッキングや非稼働時の自己学習により、生産性は約3.8倍(※3)向上する見通しです。また、本導入は商品の品揃え拡大への対応だけでなく、アスクル物流における自動化・DXを一步飛躍させるものと位置づけています。

なお、ギークプラス社の製品としては 2019 年から AVC 関西にパレット搬送用ロボットとして AGV(※4) (ギークプラス社製「EVE M1000R」)が稼働しているほか、2021 年より ASKUL 三芳センターに自動棚搬送ロボットとして「EVE P800R(AGV)」が導入され、稼働しています。

(※2) Autonomous Mobile Robot の略。自律走行型協働搬送ロボットのこと。

(※3) 庫内のピッキング工程における、従来の手作業ピッキングとの比較。

(※4) Automatic Guided Vehicle の略。自動搬送ロボットのこと。

## ■自動搬送システム「PopPick」の導入背景

当社では、2025 年 5 月期を最終年度とする中期経営計画において品揃え商品の拡大を宣言し、「強みの高速物流を進化させ、ロングテールも「明日来る」(あすくる)を実現」することを掲げています。特に、「医療機関・介護施設(メディカル領域)」「製造業(MRO 領域)」を 2 大戦略業種と位置づけ、専門商材＝ロングテール商品の品揃えを拡大することで、さらなるお客様の新規獲得と買い回り拡大を目指しています。そのため、物流センターにおいてはこれまで以上に多くの商品アイテムを収容し効率よく出荷することが求められています。

そこで、同面積に対して高密度に数多くの商品を収容できるだけでなく、ピッキング作業効率をさらに高められることから、今回の PopPick 導入に至りました。

アスクルはこれからも、すべての仕事場とくらしに「うれしい」を届け続けるため、データやテクノロジーを活用したデジタルトランスフォーメーションを実現してまいります。

## 【ギークプラス社概要】

### ●ギークプラスについて

ギークプラスは、2015 年中国北京にて創業。グローバルで 200 社/2 万台以上の自律型協働ロボットの導入に成功し、世界シェア首位のユニコーン企業となっています。日本法人は 2017 年に設立。大手物流プレイヤーに相次いで導入され、国内でも 2,000 台以上を導入している国内シェアトップ企業です。深刻化する人手不足と急拡大する物流の需要拡大の解決策として、次世代ロボティクス技術を活用し、新たな物流スタンダードの共創を目指しています。

社名: 株式会社ギークプラス

本社: 東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 20 番 3 号 恵比寿ガーデンプレイスタワー26F

設立: 2017 年 8 月

代表取締役社長: 加藤 大和

URL: <https://www.geekplus.jp/>

【関連プレスリリース】

●2022年6月22日:AMRをAVC日高へ34台導入  
<https://pdf.irpocket.com/C0032/mCOP/vvul/OaNS.pdf>

●2021年7月14日:実行型AIロボット導入で物流現場のDXを加速  
<https://pdf.irpocket.com/C0032/Zbuw/VEta/Kkxw.pdf>

※本リリースに掲載の情報は発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますのでご了承ください。